

これって  
どうなの??



## 近

頃、めっきり本を読むのが億劫になってしまった。原因は、誰もが歳を重ねると経験する「老眼」である。メガネなら遠近両用という便利なものがあるが、いかんせんコンタクト族は不便なもの。以前、老眼用コンタクトを試したが、どうもうまく調整できず断念した。

コンタクトで視力をあげると、本



イラスト／安彦麻理絵

当に近くがみえずらいので0.8程度に。これも少し不便で、今度は遠くが見えづらい。困ったものだ!!

仕事は老眼用メガネを使用しているが、もともとメガネ嫌いでコンタクトにしている私は、なかなか馴染めない。

さらに、老眼は近くが見えにくいだけでなく、文字を読むと目は重苦

しいし頭が痛い。自然と活字離れにつながる。近頃はぐんと読書量が減り、その対策としてタブレットの電子書籍へと移行した。

紙の質感、ページをめくる音、書物の重みといった要素がいかに大きなウエイトを占めていたのかを痛感する日々である。タブレットでは文字は好みの大きさに拡大できるが、指で画面をスーッとなぞるだけの

ページめくりはどうも味気ない。加えて、不思議なことに内容が頭に入っていない。どうも読んでいるのではなく、見ている感覚なのだ。

老眼で、本の楽しみを奪われるわけにはいかない。久しぶりに本屋でいろんなジャンルの本を買いもめた。あとは実行に移すのみ。通勤電車で老眼鏡をかけ、いざ読書。あー、読書は最高だ。

〈事務局長 山橋由貴子〉



## のんちゃんのおすすめスポット紹介

山形県編



「徳の交わり」像。西郷隆盛と庄内藩家老・菅実秀が親睦を深めた様子を表現。



西郷隆盛作「疑似鮭」

## 南洲神社に行ってきました

「西郷どん」こと西郷隆盛。私は、鹿児島に住んでいたことがあるので、地元の「西郷どん人気」を肌で感じて育ちました。しかし、鹿児島から遠く離れた東北にも、西郷どんを慕う地域があると知り、さっそく行ってきました。

西郷どんを祀る「南洲神社」は、全国に4カ所\*。本州では、山形県にしかありません。なぜ、山形県に? ご存知の方はかなりの歴史通。幕末、戊辰戦争で幕府側についた庄内藩(現:山形県鶴岡市、酒田市)は、当然厳しい処分を覚悟したのですが、実際に下された処分は、西郷どんの指示により非常に寛大なものでした。

これに恩義を感じ、その人柄にも感銘を受けた旧庄内藩主や藩士は、鹿児島を訪れ西郷本人から教えを受けました。そして、全ての教えを「南洲翁遺訓」としてまとめ、旧庄内藩士が全国を行脚しながら配布しました。

南洲神社は昭和51年に建てられ、現在も「南洲翁遺訓」を無料で配布しています。展示室は狭めながら、西郷本人直筆の掛け軸等の貴重な資料がたくさんありました。珍しいところでは、沖永良部島に流されていたときに作った「疑似鮭」。(写真参照)これがまた、よくできていてびっくり。西郷どん、手先も器用だったのですね。

大河ドラマ「西郷どん」の今後の放映にも、庄内藩とのエピソードが登場するかも? ぜひ、みなさんも訪問してみたいかがでしょうか。

\*その他の南洲神社 鹿児島県鹿児島市、沖永良部島、宮崎県都城市

南洲神社 ▶ 山形県酒田市飯森山二丁目304-10

【アクセス】酒田駅から車で15分、JR酒田駅よりるんバス大学線「土門拳記念館前」より徒歩8分 【休館日】日曜・月曜